

### 【危機管理課職場関係者】

B（危機管理課 課長）54歳 男性

約30年前に県庁に入り、何度か転勤で他の部署も経験したが、勤務経験の殆どは危機管理課であり、この業務にはプライドもあり自信も持っている。

危機管理課は少人数ではあるが、災害発生時には県の災害対策室で指揮中枢となることが求められるので、課の職員には高い意識を持っていてもらいたい。

課長になったのは3年前であり、専門官のCとはその時から一緒に仕事をしており、気心も知っているし危機管理能力にも一目置いている。

Cは声も大きく所謂昭和世代の明るい中年男性で、細かいところへの配慮がややかけるため、部下の女性職員にはセクハラめいた発言をすることもあり注意している。

今回自殺をしたAは昨年4月に27歳で県庁に入ってきた。新人であるが、やや年齢が高いこともあって危機管理課に配属となり、一係で基礎を学んでもらうこととしたが、直属の先輩が年下の女性であることや、指導を任せることとなったCが豪放な性格であり、大人しい雰囲気のアがうまくやっっていけるか少し心配ではあった。

Aは徐々に仕事に慣れてきていたことから、1月に発生したNH地震で当課から現地へ応援要員を派遣することとなった際、災害現場を実際に見てきてもらいたいと考え、ベテランのC専門官とAを1か月間、I県庁に派遣することを私が決めた。

派遣終了後のCからの報告により、派遣先においてAが度々体調を崩していたことを知った。CはAに対しその都度休むようにも話し、また派遣要員の交代を要請することも提案したが、Aは責任感から仕事を続けていたようである。

派遣先でAが体調を崩していたことも、本人から他の課員には黙っていて欲しいと言われたことから、私とCの二人だけの情報とした。

Aが春に結婚することは以前から聞いていたが、2月の下旬にAから相談があると言われ、危機管理課からの転出の希望を切り出された。

NH地震への派遣で体調を崩したことから、このまま仕事を続けていく自信がないとのことであった。

また、結婚を控えて色々と準備があり、喜ぶべきことなのに少し疲れているとも話していた。

最初は慰留に努めたが、数回にわたり個人面談を行った結果、本人の意思が固いことから人事当局に要望をしたが、春の人事異動は決定済のため来年まで待つようにと言われ、本人にも伝えた。

Aも「仕方がないですね」と言ってくれたので納得したものと思っていた。

Aは本来であれば昨年の7月に県庁恒例の新人の合宿研修に参加予定であったが、直前にコロナに感染し参加することが出来なかった。

Aは今年4月に入籍し5月に結婚式を挙げたばかりの新婚であり、今年は2年目なので任意参加の合宿研修に参加する義務は無かったが、本人に希望を聞いたところ「参加したい」とのこととで参加させることとした。

この数か月、後から考えればAは少し元気がない様子であったが、自殺をするような言動には全く心当たりはない。

人事異動が出来なかったことが原因であるならば、自分の責任でもあるし、もっと明確に伝えてもらえば良かったという気持ち強い。

今回の事があった後、私と人事厚生課長、研修所長の3名で情報を共有することとなり、現場での対応は職員O、研修生J、K、Lが対応にあたったことなど発生時の状況や、当日のご家族の反応などを詳しく聞き、私の方もAの情報を2人に伝えたが、これらは個人の秘密に関する情報なので3者限りにすることとなったため、危機管理課の職員にも話していない。

惨事後 Meeting するとき「ご家族は何と聞いていますか？」と聞かれた場合

人事厚生課長から聞いた妻Aさんのことを話す。

県に対して 不信感、県に対してトラブルな感はなし。

奥さんは、口数がすくなく、びっくりしている 自殺するような兆候はみあたらない

遺書的にあった「ごめんなさい、先に逝きます」これについて特に思い当たるふしがない。